



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



## 一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963  
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)  
E-mail [info@3c-mie.net](mailto:info@3c-mie.net) <https://3c-mie.net/>



猛暑とか酷暑とかの表現が当たり前の日々が続く中、国連事務総長の口からは、地球温暖化ではなく「地球沸騰化の時代」が到来と言われしめるほど地球全体で気温が上昇し続けています。こうした現象をしっかりと自分事として受け止め、考えなければと思います。

さて、最近Z世代という用語が頻繁に使われます。20代半ばまでの世代を捉えて言うそうですが、その前はY世代、そしてX時代は40代から50代半ばだそうで、残念ながらW世代という表現は無いようです。

今回は、まさしくZ世代である大学生のみなさんが集う学生団体「FORTUNE」代表の小林さんに投稿いただきました。これから、多くの地域課題に対して一緒に活動いただけたらと思います。

裏面では度会郡4町が近隣市町を訪問し現地学習会の機会をいただいた内容を紹介します。

学生団体 FORTUNE の代表を務めております小林大貴と申します。

企業でもなく、行政でもなければ大学職員でもない私達が今回この地域連携ネットワークみえに関わらせていただくことになりました。

私達は何を目指しているのか、なぜ地域連携ネットワークに参加したのか。皆様に私達の思いが伝わることを祈り書かせていただきます。



学生団体 FORTUNE  
代表 小林大貴さん



まず、私達の団体「学生団体 FORTUNE」は大きく2つの目的があります。1つ目は学生と地域の企業が連携し、課題解決や新たな価値を生み出すこと。そしてもう1つは学生が活動を通して思考力を身に付け、自分の価値を認識すること。

一般的に言う「意識高い系」に意識的になることを目指しています。意識高い系という言葉は皮肉としてよく使われますが、そうやって何かしようとしている人を一括りにしていいのでしょうか？

私はそのような出る杭は打たれる日本の環境がとても残念に思います。

自分の意見を持ち、それを周りに伝え、共感してくれた仲間とともに世の中をより良く変えていく。

それは意識高い系にしかできないことであり、そのような人がいたからこそ今があるのだと思います。

就職面接は多くの人を通る道だとは思いますが、そこで自分の気持ちを正直に答えている人はどれくらいいるのでしょうか？

自分の価値観、スキル、仕事として本当にやりたいことを自覚し嘘偽りなく伝えるには、学生の間にかに多くの経験を積むかが大事だと思います。もちろんバイトや部活も大切ですが、社会と繋がり社会が自分に求めることは何なのかを知ることが大切だと思います。

学生と社会人の差などほとんどありません。

学生も卒業して就職すればすぐ社会人です。

学生が社会人になるステップが必要なのではないでしょうか。

その社会経験の場を提供するのが FORTUNE というプラットフォームです。

学生が企業や行政と連携し、課題解決を行います。

若者だからわかる感性やトレンド、面白いアイデアを活かし新たな解決策を生み出すことを目指します。これまで観光協会や製薬会社、レジャー施設、福祉施設など多くの方と活動させていただきました。

そして最後に、なぜこの地域連携ネットワークに参加したのか。

それは私達がやりたいことが、このコミュニティで実現できるのではと思ったから。

そして私達の理念をここに参加していらっしゃる皆様であれば共感してくださると感じたからです。

これからも社会と学生をつなげる活動していきます。

興味を持ってくださった方はぜひ一緒にお話させてください！

Email: [mieu.fortune55@gmail.com](mailto:mieu.fortune55@gmail.com)



FORTUNEが大切にしたいマインド

思考 → 言語化 → 実行

このプロセスを丁寧に行うこと = 「思考力」

活動の中で気づいたこと

社会が求めていることは

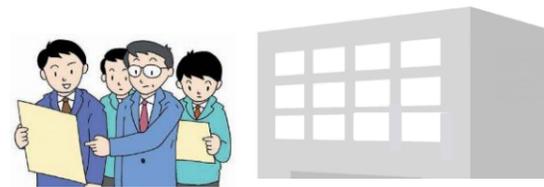
自分の特技 ▶ スキル

自分の性格 ▶ 価値観

を認識することが必要



# 地域連携ネットワークみえ 活動レポート



8月2日に、度会町、玉城町、大紀町、南伊勢町の職員のみなさんと、明和町インキュベーションセンターならびに松阪市飯南産業文化センターを訪問し、現地勉強会を実施しました。

**明和町**インキュベーションセンターでは生活環境課のみなさんから**交通対策**について、そのお取り組み事例を教示いただきました！

明和町は、松阪市と伊勢市の間にある人口2万3千人弱の町です。主要道路は国道23号線が縦断し、鉄道は近鉄電車の駅が2箇所あり歴史豊かな地域です。

そうした環境の町の交通として今回お話しいただいたのは、

- ①コミュニティバス「**町民バス**」
- ②デマンド型交通「**チョイソコめいひめ**」
- ③民間のデマンド交通「**mobi**」の3交通です。



- ① **町民バス**は、4路線あり、29人乗りバス4台が365日運行。

バス停は町内88箇所、1乗車100円(小学校以上)。利用者はコロナ禍も年々増えて昨年度は2万7千人近かったとのことですが、過去ピーク時は4万人の利用もあったとのこと。

なお、町外の方も利用できるそうです。



- ②「**チョソコめいひめ**」は利用者を絞った登録制で運行するデマンド型交通。

利用者(高齢者等)の予約に応じた運行でフルデマンド方式です。運行時間は平日のみで9時から16時までとのことですが、住民の声として通院にはもう少し早い時間から運行を希望される方もあるとのこと。

停留所は住民の皆さんのご理解を得て町内187箇所設定。停留所の表示はご担当の職員さんが手張りされたそうです。

現在、9月29日までの実証運行中ですが、このまま継続要望が強いようです。

- ③「**mobi**」も利用者の予約に応じたフルデマンド方式ですが、利用対象に限定はありません。運行時間も平日の8時から19時と「めいひめ」よりは幅があります。停留所は304箇所のスマホ上の仮想空間で設定されています。実証期間は来年8月29日までとなり、民間の運行ですからその動向が注目されます。

出来れば市町をまたいで運行いただけるともっと利便向上につながると思います。



**松阪市**飯南産業文化センターでは地域づくり連携課の移住促進担当のみなさんから、**空家対策から移住実態**についてのお取り組みをお話しいただきました。



松阪市は、1市4町が合併されて今日に至っており、旧町は振興局が設置され地域の業務を担ってみえます。

その中で移住促進に関する事業として、先ず空家バンク制度が平成26年度より飯南・飯高地域でスタートされ、今では「**まつさか移住交流センター**」として飯南産業文化センター内に開設し移住促進業務を一元化して取り組まれています。

移住関連のお問い合わせは、令和元年度が126件だったのに対し令和4年度には1,175件となり、コロナ禍の影響も大きいのではと推測します。

中でも空家バンクに関する問い合わせは、14倍と急増しています。

しかし、空家バンクを利用したいとして登録されている方が576世帯に対し、物件登録数が161件という実態でマッチングには大変苦労されています。

それでも令和4年度は23世帯の成立があり、47人の移住がありました。

令和5年3月末時点では累計で111件の成立があり、208人の移住者実績です。



移住を促すには当然、住民の暮らしを支える環境が必要です。

したがって、センターの仕事は、移住促進のイベントやセミナーや相談会、お試し住宅の施設運営のほか、買い物支援などの生活支援活動、地域おこし協力隊のサポートなど、結果として移住促進につながるあらゆるお取り組みの業務を担ってみえます。やはり、平成24年度から取り組まれた住民自治組織(RMO)がバックボーンとなって今日の実績があるのではないのでしょうか。

住民の協力があってこそその成果だと思います。

それにつけても現在、3名の職員さんで土日も開業され運営されているのには脱帽です。問い合わせは土日が多いからだとそうで、常に相手目線に対応されています。



<後記> 今回訪問させていただいた自治体のお取り組みは、メディアにも大きく取り上げられていますが、ここに至るご苦労はあまり報道されません。結果の賛美より、経過の厳しさを共感させていただけるのは、生の声を聞かせていただいたおかげです。各ご担当者に感謝です！